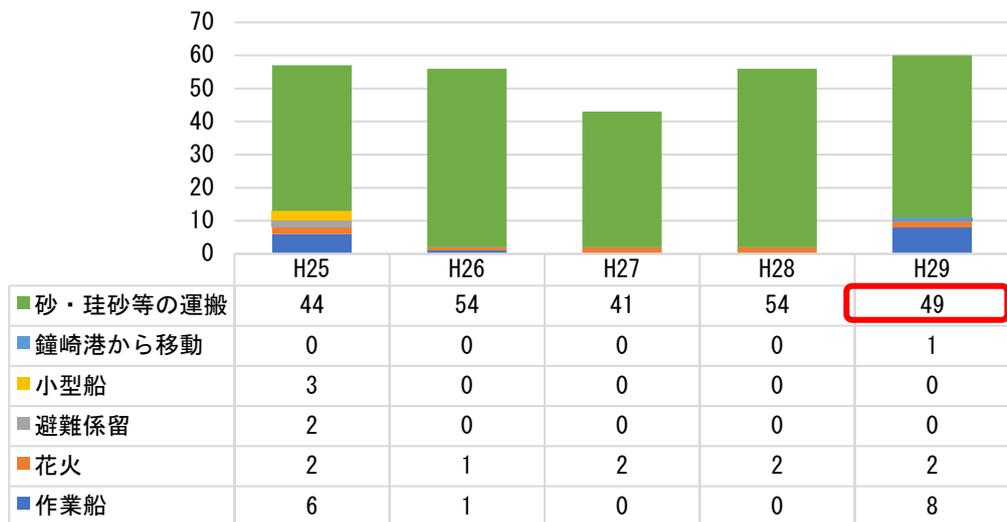


5) 芦屋港の利用状況

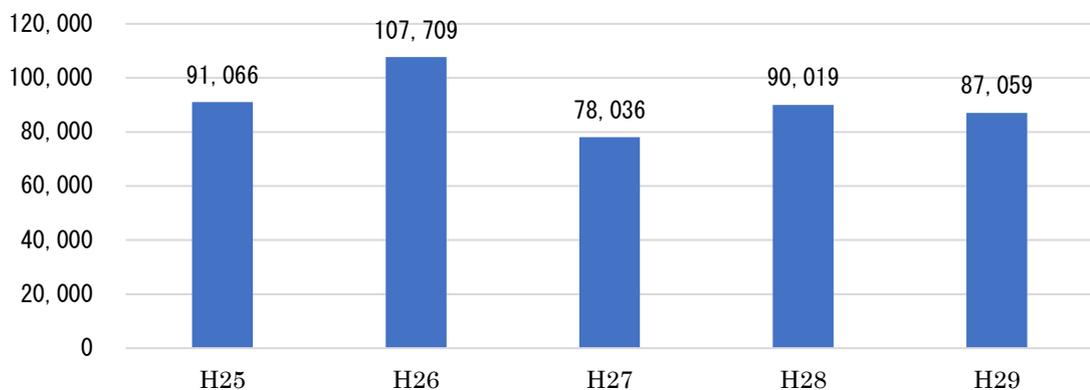
①物流港としての利用状況

- ・過去5年間の砂・珪砂などの運搬のための入港回数は、平均で **48.4回/年、7.5日**に1回の入港頻度となっています。
- ・過去5年間の取扱貨物量は、**7万~10万トン/年**で推移しており、芦屋港港湾計画に掲げる目標値13万トン/年からも**非常に**低位に推移しています。
- ・平成29年の福岡県内の港湾における芦屋港の入港船舶数、貨物取扱量（国内貿易のみ）の比率は、**いずれも0.06%、0.07%**と非常に少なくなっています。

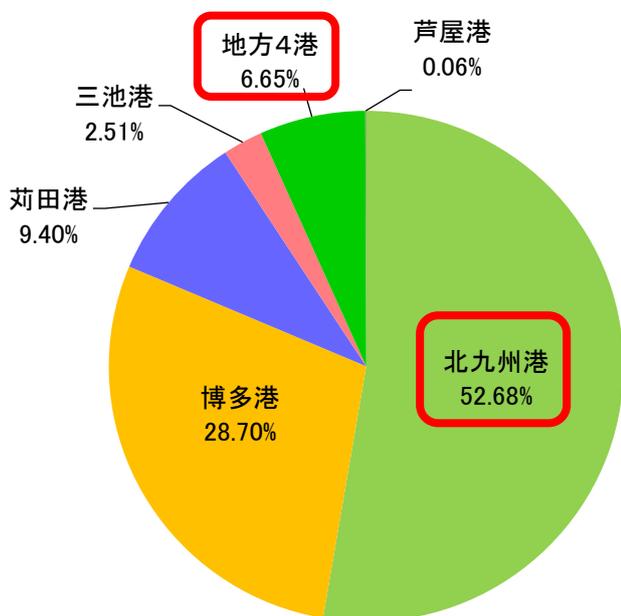
■芦屋港への入港回数の内訳（単位：回）



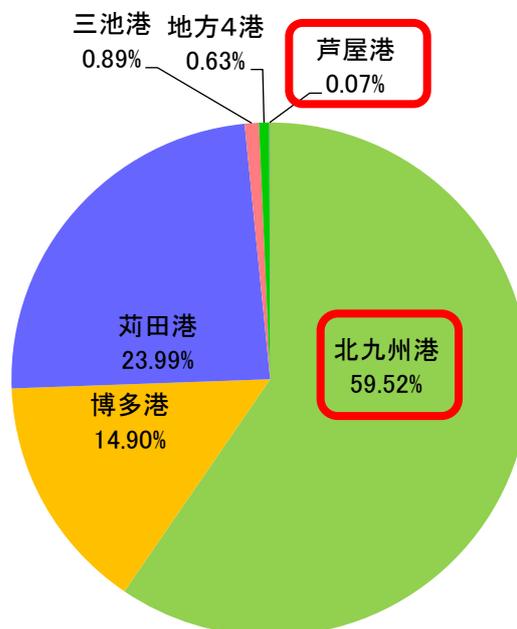
■取扱貨物量総トン数（単位：t）



■福岡県内の港湾の入港船舶数のシェア
(平成 29 年)



■福岡県内の港湾の取扱貨物量（国内）
のシェア(平成 29 年)



■利用事業者へのヒアリング結果

芦屋港では、現在 2 つの事業者が、主に砂・砂利の移出入で利用しています。このため、この 2 事業者に対し、平成 27 年度に福岡県が実施したヒアリング内容をもとに、現在の利用状況や今後の見込みについてヒアリングを実施しました。

(平成 29 年 11 月 21 日実施)

- ・現在、芦屋港を利用している事業者は 2 事業者。
- ・1 社は、芦屋港への入港回数は不定期ではあるが、移出の平均頻度は月 1~2 回（多い時で 3 回）、移入は 2~3 か月に 1 回。利用船型は 499G. T が平均的で最大 2,000G. T。陸上輸送は、10 トンダンプで行なっている。
- ・1 社は、入港頻度は平均月 2 回、最大で 2,124G. T の船舶を使用している。陸上輸送は、10 トンダンプを中心に行なっている。

※G.T：総トン数であり、船舶の規模を示す単位

3 芦屋町の現状に関する資料

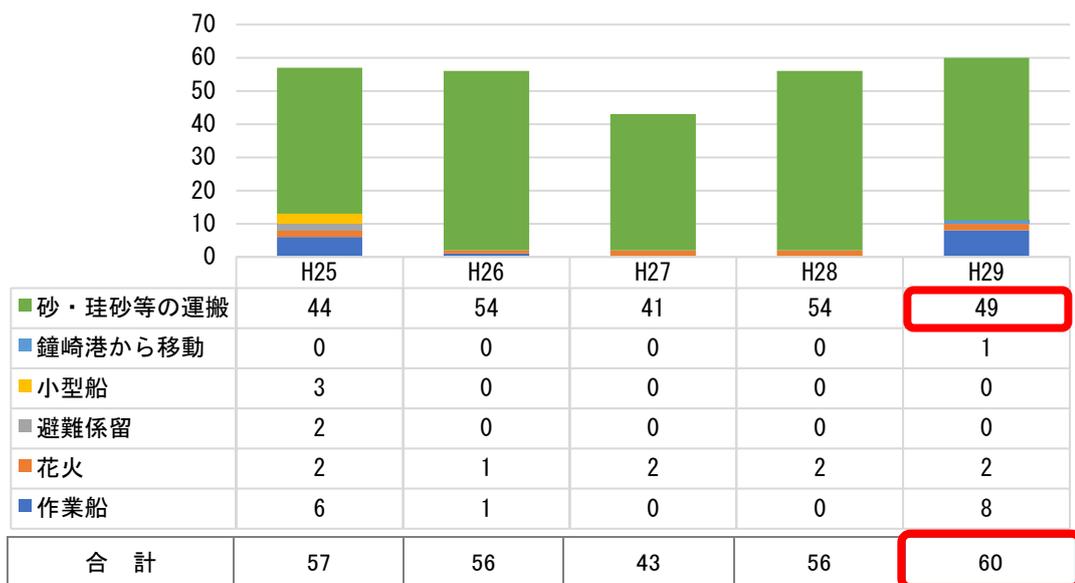
(1) 芦屋港の利用状況

1) 芦屋港の入港回数と取扱量

① 芦屋港の入港回数と入港目的

芦屋港の入港回数は、年による大きな変動はなく、砂運搬船が大半を占めています。砂運搬船の入港は5年間の平均が年 48.4回 となっています。

■ 芦屋港への入港回数の内訳（単位：回）



② 芦屋港の取扱貨物量総トン数

芦屋港の取扱貨物量総トン数は、年により増減がありながらも、70,000トン～100,000トン台で推移しています。

■ 取扱貨物量総トン数（単位：t）

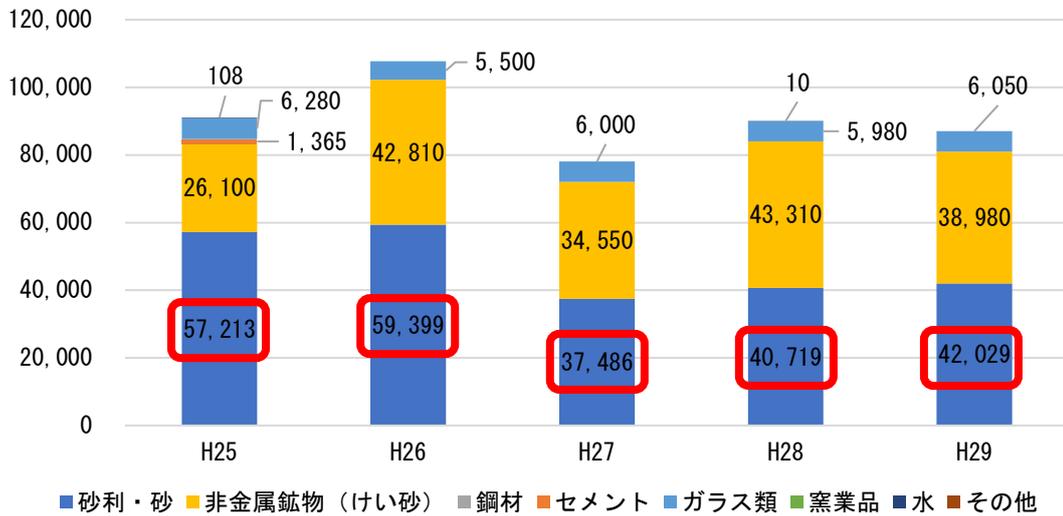


※数値は水産物を除いたもの

③芦屋港の取扱貨物の内訳

芦屋港で取り扱う貨物の内訳と量の推移を整理しました。それによると、砂利・砂が最も多く、次いで、非金属鉱物（けい砂）、ガラス類となっています。

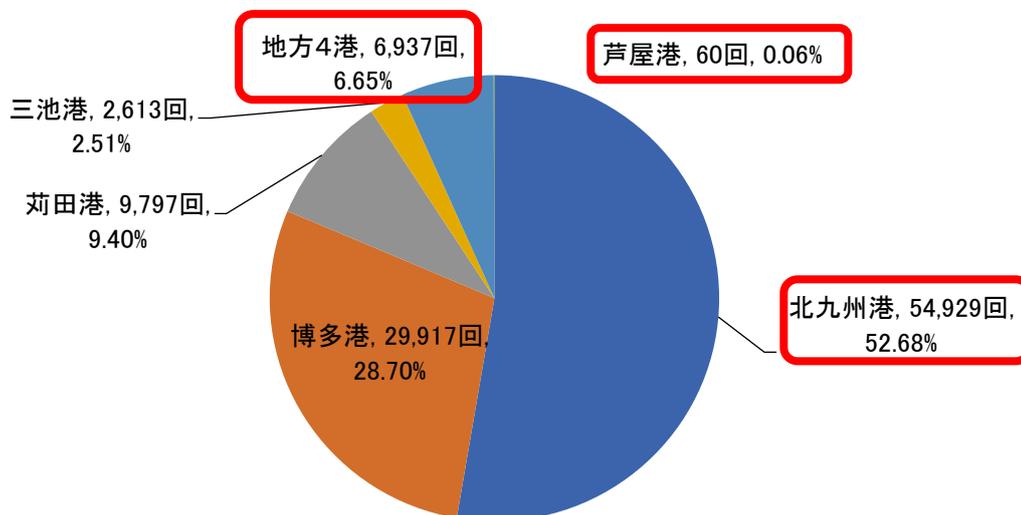
■貨物量の内訳の推移（単位：t）



① 福岡県内の港湾における港湾入港回数

平成 29 年の福岡県内の港湾における入港船舶数実績は、**104,253 回**となっており、北九州港と博多港で全体の 80%以上を占めています。そのうち芦屋港は **60 回**であり、福岡県全体に占める割合は 0.06%と非常に低くなっています。

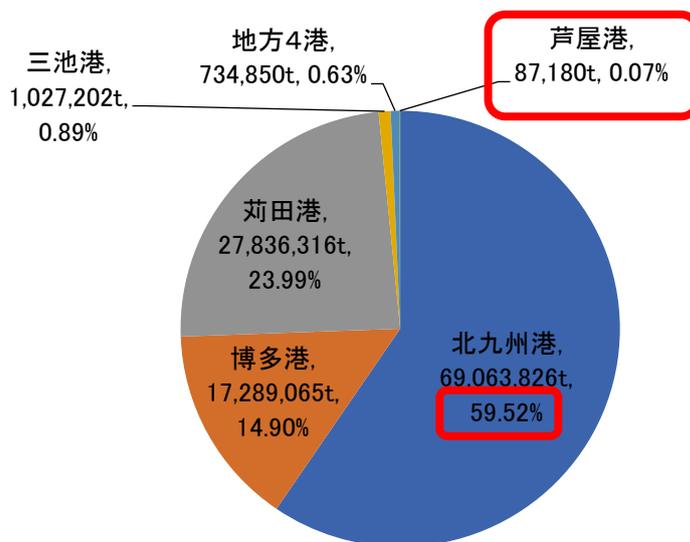
■平成 29 年の福岡県における港湾入港回数実績（単位：回，%）



② 福岡県内の港湾における取扱貨物量（内国貿易）

福岡県内の港湾における内国貿易（国内の貿易）の取扱貨物量は、平成 29 年は、**116,038,439 フレート・トン**となっています。そのうち芦屋港の実績は **87,180 フレート・トン**で、福岡県全体に占める割合は **0.07%**と非常に低くなっています。

■平成 29 年の福岡県における取扱貨物量（単位：t，%）



※フレート・トン：港湾における貨物の運賃や港運料を計算する際に用いる、貨物の単位のこと。フレート・トンは、1.133 立方メートルの容積、あるいは、1,000kg の重量を 1 トンとして容積と重量のうち大きい方を採用する。